

日本各地から寄せられた富士信仰

古くから富士山は日本全国でよく知られており、詩歌や随筆、美術作品を通して謳われました。

11 世紀になり火山活動が落ち着くと、修験者たちはこの日本一高い山を修行の場に求めました。富士山を中心とする信仰的な伝統は広がり続け、15 世紀には一般巡礼者もこの山を登り始めました。礼拝の行為として富士山を登る慣習は登拝と呼ばれます。

このような一般巡礼者は富士山に銅鑼などの儀式に使う道具や仏像を奉納しました。これらは登山道や山頂にある信仰において大きな重要性を持つ地点に立てられた木造の小屋や石造りの室に保管されました。山麓で拝まれていた木像とは異なり、富士山中の奉納品は金箔張りの銅や鉄の像でした。それぞれの品には通常、その品が作られた年と寄進者の名前および居住地が刻まれていました。右側の地図は、これまでに判明している寄進者たちの居住地を示しています。富士山を中心に、これらの居住地の範囲は関東全域を網羅し、遠くは西の京都にまで及んでいます。このことは、日本最大の島、本州の住民の間に富士信仰がいかに広く普及していたかを示しています。

